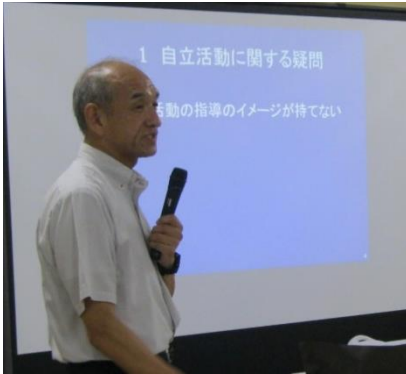


「知的障害特別支援学校における自立活動の指導」



本校では、「新学習指導要領を踏まえた小中一貫した教育課程に関する研究～各教科の指導から考える学びの地図の構築～」をテーマに研究を行っています。

研究3年目となった今年度は、特別支援学校教育の基盤となる「自立活動」について、下山 直人先生(筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校長)をお迎えし、上記のテーマでご講義いただきました。さらに、事例検討を通じたグループワークを行い、ご指導、ご助言をいただきました。

講義では、自立活動の位置づけや教育課程の構造等に触れ、学習指導要領で示されている自立活動の目標や内容、新学習指導要領で改訂された部分について説明していただきました。続けて自立活動をより深く学ぶために、事例を通じた2つのグループワークを行いました。

グループワーク①では、児童・生徒の指導すべき課題について付箋を使って可視化させ、実態把握と情報の整理を行いました。グループワーク②では、具体的に指導計画の記入を行い、指導目標の設定と「いつ」「どこで」「なにをやるか」を明確化させ、その修正について協議を行いました。

下山先生は、資料として、「知的障害特別支援学校の自立活動の指導(全国特別支援学校知的障害教育校長会)」からの抜粋を使われながらご助言してくださった後、まとめとして次のようなお話をされました。

「具体的で、観察可能な目標を設定し、実践を行った後、事実に基づいてきちんと評価することが大切です。児童・生徒の様子を観察し、次の目標、授業、支援をどうするのか…授業や支援、教員(支援者)が変化することが、次の学びにつながります。『できない』『やらない』という見方から、『なぜできないのか』『何に困っているのか』『どうしたらできるのか』という自立活動の視点をもって、生活を豊かにする実践を行い、それを児童・生徒の学びにつなげていきましょう。」

今回の研修を通して、改めて「自立活動をきちんと行うことで各教科がしっかりと積み重なる」ということを下山先生から教えていただき、特別支援教育における自立活動の大切さを実感しました。

本研修の成果を生かし、児童・生徒の日々の様子を細かに捉えて課題に気づき、自立活動の視点をもって指導に当たれるよう、実践を積み重ねていきます。